令和６年度　　自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	55	学校名	中津川工業高等学校

学校教育目標 （教育方針）	1　明朗で健康な心身を育成する（健康にして明朗、友愛に満ちた教養ある社会人となるべき資質を養う） 2　自主創造性の伸長を図る（自ら考え判断し、表現する力を身につけ、創造性の基礎を培う） 3　誠実で勤労を愛する態度を養う（専門的な知識・技能に習熟し、勤労を尊び、誠実にことにあたる人材を育成する） 4　自然を愛する豊かな心を育てる（自然を愛し、生命を尊重するとともに、相手を思いやる心や社会性を養う）	
３つの方針 (ｽｸｰﾙ･ﾎﾟﾘｼｰ)	どんな生徒を育てたいか 【ＧＰ】	・工業ならではの知識・技術・スキルの向上をめざし、主体的に他者と協働して課題解決に取り組む生徒 ・多様な人々の互いの人格を尊重し、人と人とのつながりを大切にし、自らの役割と責任を果たせる生徒 ・グローバルな視点から問題の核心を把握し、その解決を目指し地域や社会に貢献できる生徒
	生徒をどう育てるか 【ＣＰ】	・課題発見力・課題解決力を育成するための「主体的・対話的で深い学び」や「実習」、「課題研究」の推進 ・「課題研究」や教科学習、ＩＣＴの活用による、コミュニケーション能力とプレゼンテーション力の育成 ・生徒一人ひとりの個性を尊重し長所を十分に伸ばし、深い学びを実現するためのカリキュラムの編成と個々に応じた細かな指導の実施
	どんな生徒を待っているか 【ＡＰ】	・ものづくりや工業分野に興味があり、向上心を持ち、多様性を尊重し、他者と協働しながら主体的に学びたい生徒 ・自分の将来に目標を持ち、多様な学びに主体的に取り組み、自らの可能性に挑戦したいという意欲のある生徒 ・地域活動などの校外の自主的な活動や、学校行事や部活動などの校内の活動に積極的に参加し、思いやりを持って関わろうとする意欲のある生徒
学校の抱える課題	・生徒の多様化により、個々に対応をしなければならない状況が多くなっている ・生徒間の能力差が大きくなってきており、個に応じた能力の伸長が求められている ・目的意識が薄く、学習意欲が低い生徒が増えてきている	
教育指導の重点	領域・分野	今　年　度　の　具　体　的　な　重　点　目　標
	学習指導	観点別評価により、学習意欲の向上につながる評価の確立
	生徒指導	人権感覚を高め、いじめのない学校の実現
	進路指導	自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択できる能力や態度の育成
	その他	専門性を高め、将来の地域を担う人材の育成

年　度　目　標					年　度　末　評　価（自　己　評　価）			
領域 分野	３つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け		達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A.B.C.D	成果と課題	総合 評価 A.B.C.D
学習指導	学期毎の評価のチェック・検証	8	施策Ⅱ-8	❶ 自己評価 ❷ 学期毎の評価のチェックと検証 ❸ 生徒・保護者等へのアンケート	① 定期考査ごとに評価が適切におこなわれているかを確認した ② 教科・学科間で評価規準が大きく異ならないよう調整した。 ③ 基礎学力を重視し、生徒個々の能力に応じた指導ができるよう、各教科で工夫した。	B	① 評価のタイミングが考査に偏りがちなので、今後検討したい。 ② 教科・学科の特性があるため、調整を続けていく必要がある。 ③ 生徒の能力の幅が広く、個別対応には限界がある。	B
	教科・学科間における評価規準等の調整	14	施策Ⅱ-14					
	基礎学力の充実と個に応じた学習支援	21	施策Ⅳ-21					
生徒指導	人権教育（いじめアンケート実施を含む）	1	施策Ⅰ-1	❶ 自己評価 ❷ 生徒・保護者等へのアンケート ❸ 学校関係者評価	① いじめ防止・早期発見のため、機会があるごとにアンケートを実施した。 ② スクール相談員を活用し、教室には入れない生徒の対応を検討した。 ③ ＳＮＳを利用した犯罪や人権侵害について周知し、研修を行った。	A	① アンケートを活用したいじめ防止・早期発見はそれなりに効果があった。 ② 木質化された「ほっとプレイス」の活用を推進したい。 ③ ＳＮＳがきっかけのトラブルは、発見が難しい。	
	教育相談週間を含む相談活動	3	施策Ⅰ-3					
	情報モラル教育	19	施策Ⅲ-19					
進路指導	保護者と連携した進路支援	7	施策Ⅰ-7	❶ 進路実現の結果 ❷ 生徒・保護者等へのアンケート ❸ 就職模試等の結果	① 生徒の進路希望実現へ向けて、保護者を含め丁寧な支援を行った。 ② 進学・就職相談会に参加・開催し、必要な情報から取捨選択できる環境を整えた。 ③ スマートホンで求人票を検索できるシステムを導入し、活用させた。	B	① 就職・進学希望者全員が進路先を見つけることができた。 ② 情報の取捨選択の方法を指導しないと、安易な決定に流れてしまう。 ③ 家庭でも求人票の閲覧が可能になり、家族で就職先を考える機会ができた。	
	進路ガイダンス等の効果的な活用	1	施策Ⅰ-1					
	ＩＣＴを活用した進路支援	9	施策Ⅱ-9					
その他	専門性を高める指導	10	施策Ⅱ-10	❶ 最新の情報の活用 ❷ 地域行事への参加回数 ❸ 資格取得率	① 企業とコラボして最新機器に触れたり、リニアの工事現場を見学する機会を得た。 ② 出前授業やものづくり体験など、工業高校をアピールできる場に多く参加できた。 ③ 授業内外において、各種資格の積極的な取得を推進した。	B	① 先方の都合で企業とのコラボが中途で終了になったのは残念だった。 ② 地域や地元企業の要求に応えられる体制作りが必要である。 ③ 資格取得率は例年並みだが、合格率を上げられるよう工夫したい。	
	地域と連携したキャリア教育の充実	13	施策Ⅱ-13					
	資格取得の推進	14	施策Ⅱ-14					

来年度に向けての改善方策等

- 「指導と評価の一体化」についての研究が、他校に比べまだ改善点があるように思われる。工業高校という特長を活かした評価の在り方について、今後も検討していく必要がある。
- ＳＮＳなどを通じた「いじめ」の実態がつかみにくく、早期発見が容易ではない。生徒を観察することにより、普段と違う様子があればこちらから積極的に声かけをするなど、コミュニケーションを重視していきたい。
- 求人票の数が非常に多く、工業高校にかけられる期待がいかに多いかがわかる。一方で給料がよいなどの安易な進路決定に陥りがちで、ミスマッチによる早期退職という結果にならないよう指導をしていく必要がある。
- 地元企業からの期待に応えるべく、求められている人材を育成するためより丁寧な指導や資格取得を促進していきたい。同時に、将来地元に貢献できるような人材の育成も必要である。
- 進路決定における保護者の意向がますます強くなっており、生徒と保護者との連携がより一層大切になっている。

学校関係者評価

実施日：令和７年２月２０日

- 学校の魅力をアピールし、わかってもらう意識が生徒にもあり、嬉しく感じた。本校の良さや地元で働くことの意義をアピールし、女子生徒も増やしていけると良い。
- 体育祭の応援合戦など、地元なので昔から見に行っている。テクノボランティアやものづくり教室のイベントも大事だが、地元社会とつながる活動として続けていってほしい。
- 教室の授業だけでなく、社会と関わる校外での活動も多く取り入れられており、教わる立場や教える立場など様々な経験をすることができ、良いと感じた。
- 仕事現場などの実習や研修のような経験をする場がもっとあると良いと思う。